

チームによる発達支持的生徒指導及び課題予防的生徒指導の充実

複雑化・多様化する生徒指導上の諸課題の未然防止及び再発防止のために、チームによる発達支持的生徒指導及び課題予防的生徒指導の取組が重要となります。また、一人一人の児童生徒理解に基づいた個への適切な指導・援助についてP D C Aサイクルを機能させ、組織的にチーム支援することが大切です。

1 発達支持的生徒指導

児童生徒への挨拶、声掛け、励まし、称賛、対話及び授業や行事等を通じた児童生徒理解に基づく集団指導と個別指導が大切です。

発達支持的生徒指導の例：魅力あるよりよい学校・学級づくり



2 課題予防的生徒指導

(1) 課題未然防止教育

学校状況に応じて、生徒指導部を中心にスクールカウンセラーや広域カウンセラー等の協力を得ながら、いじめ防止教育、自殺予防教育（SOSの出し方教育）、薬物乱用防止教育、情報モラル教育、非行防止教室等を年間指導計画に位置付け、組織的・系統的に実施することが重要です。

教職員による取組例：SOSの出し方教育

生徒指導部を中心に養護教諭やスクールカウンセラー等と連携しながら、悩みなどを人に話す・聴いてもらう（言語化する）重要性について伝えることで

児童生徒が周囲の大人や友人にSOSを出す方法を身に付け、悩みや不安などが生じたときはすぐに相談する動機付けになり、早期に適切な支援を受けることが期待できます。

児童生徒による取組例：メディア利用に関するルールづくり

児童会・生徒会による自発的、自治的な取組を進め、家庭でのメディア利用に関するルールづくりを啓発することで

メディア依存による昼夜逆転や体調不良、食欲不振、不安、無気力などの危険性について児童生徒自身が気付き、考え、実行する動機付けになることが期待できます。

※北教育事務所管内において、情報モラル教育は実施されているものの、「④児童会・生徒会による主体的な取組」については十分とはいえない状況です。（下表参照）

(2) 課題早期発見対応におけるチーム支援のプロセスを踏まえた個への指導・援助

チーム支援の判断とアセスメントの実施
多面的、客観的な資料等を基に、チーム支援の必要性と方向性について判断し、自助資源と支援資源を探ります。

課題の明確化と目標の共有
課題を明確化し、具体的な目標（方針）を共有した上で、関係する教職員等の専門性や持ち味を生かした役割分担を行います。

チーム支援計画の作成
「何を目標に、誰が、どこで、どのような支援を、いつまでに行うのか」など、具体的な指導・援助の計画を作成します。

チーム支援による実践
チームによる指導・援助を組織的に実施するとともに、経過報告を行い進捗状況を共有します。

チーム支援の点検・評価
長期的、短期的な目標の達成状況について総合的な評価を行い、必要に応じてチーム支援計画を見直します。

ICT タブレット端末の健康観察機能等を活用して、児童生徒一人一人の心や体調の変化について把握したり、悩み事や困り事を気軽に相談できるようにしたりすることで、生徒指導上の諸課題を早期に発見し、早期対応がしやすくなります。

令和6年度 スマートフォン等、インターネット利用実態調査

どのような方法で情報モラル教育を実施していますか。（複数回答可）	R5小学校 (%)				R6小学校 (%)				R5中学校 (%)				R6中学校 (%)			
	鹿角	大北	能山	北管内												
①教科等の授業で指導	100.0	100.0	92.9	97.9	100.0	100.0	86.7	95.7	100.0	100.0	72.7	90.0	100.0	100.0	54.5	83.3
②学年集会や全校集会による指導	57.1	76.9	35.7	61.7	28.6	68.0	66.7	61.7	80.0	100.0	90.9	93.3	100.0	92.9	54.5	80.0
③外部講師を招へいして指導	71.4	57.7	57.1	59.6	57.1	44.0	46.7	46.8	80.0	57.1	81.8	70.0	80.0	35.7	81.8	60.0
④児童会・生徒会による主体的なルールづくり、話し合い、調査、呼び掛けなどの取組	14.3	26.9	7.1	19.1	0.0	28.0	6.7	17.0	20.0	64.3	27.3	43.3	20.0	50.0	36.4	40.0
⑤その他（生徒指導便り、パンフレットの発行など）	42.9	46.2	64.3	51.1	14.3	48.0	53.3	44.7	80.0	50.0	81.8	66.7	60.0	50.0	81.8	63.3